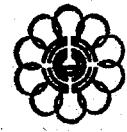


1月15日

昭和55年(1980) No.609

編集

越谷市役所企画部広報課



広報

越谷とわたし

41 ◆◆

「淋くて、一週間もしたた荷物を持って家の前に立つてゐるわよ」と、母が私をひやかした。それまほ八人家族という大世帯の中で育つてきた私である。

「ふたたび反対されても絶対にひとり暮らしをするのだから」と決意もかたく独立宣言をしたまゝ、意地でもこの母のひやかし通りになるものかと、何度も自分に言い聞かせた。

さすが、それから我が家をさがしての悪戦苦闘が数ヶ月つづくのだ。

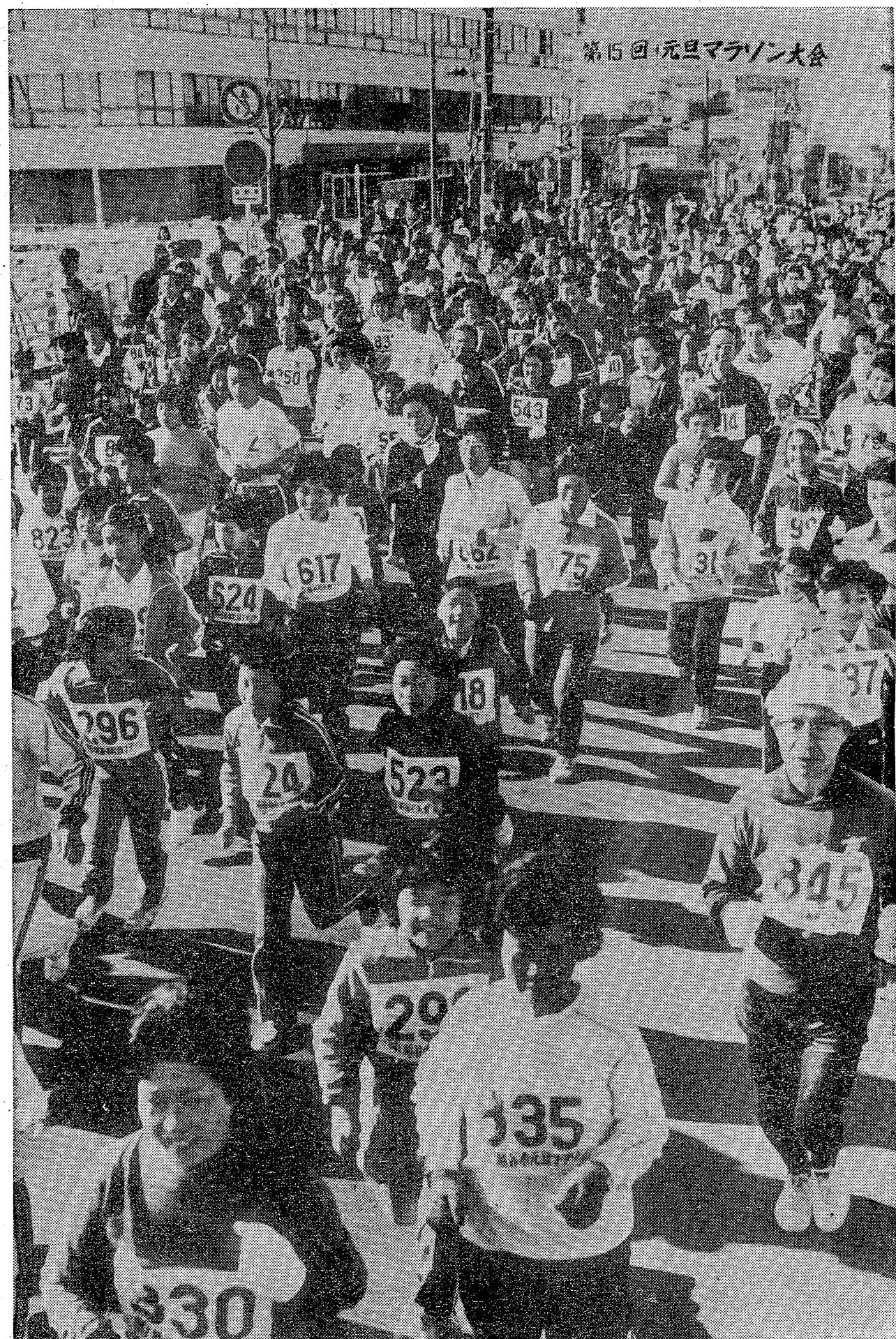
駅近く、お風呂屋さんがあり、その土地を選んだ最大の理由は、何をか

桜の花に魅せられて

北越谷の二四の二六 関口恒子(28歳)

時間が流れ、毎日

の生活が腐性になり、ともすれば弱くなる私にとって、毎年春になると変わることなく咲いてくれる桜の存在は、したた激励をする夫の声に族のことを思い出す。「ああ一人暮らしは大変……」と思いつながら、あの桜並木があるから、この地をのぞむ難く寝一の思いきりののせる今日この頃である。



新春走り初め

第15回元旦マラソン大会

ヨーイ、ドーン! ——元日の朝、1209名の参加者がいっせいに市役所前の通りに躍り出た。元旦マラソンは各所で盛んに行われているが、1000人をこす規模は全国でも10市ぐらいといわれる。

コースは、親子、小・中学生、一般女子、成人の部と、体力に応じて1kmから10kmまでの4つに分けられている。年々近隣市町からの参加者もふえ、スポーツ・レクリエーションのまち越谷の名は広く知れわたってきたようだ。



市の人口

(昭和55年1月1日現在)
住民基本台帳

	前月比
総人口	21万8127人
男	805人増
女	141人増
世帯数	164人増
世帯数	6万3020世帯
世帯数	88世帯増

本を読んだり、感想文を書いたらすことが好きなんです。もっと時間がほしいですね」と関口さん

ふるさと新聞時記

新年おめでとうございます。今号は、ふるさとに伝わる行事や催しなど、今年の見どころをご紹介します。あなたもお出かけになってみてはいかがですか。

下旬 しらこばと水上公園プールのオープン 流水プール・スライダープール・子どもプールには、まつ黒に日焼けした子どもたちの歓声と水しぶきがあがる。開園期間は9月初旬まで。北越谷駅西口から直行バスが出る。

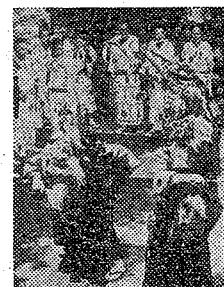
30日 越ヶ谷浅間神社の夏祭り 富士山信仰で知られる同神社の例大祭は、30日夜から行われ、夏祭りのトップを切る。境内では神樂が演じられるほか、綿アメ、金魚すくいなどの夜店が軒を並べ、ユカタ姿の家族連れなどでぎわう。30日宵宮、7月1日本祭。

7月



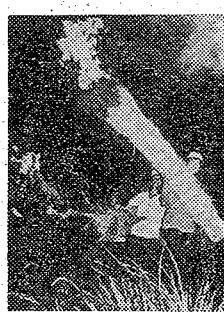
14日 天王さま 14・15日は天王さま。市内各地で行われているが、越ヶ谷袋町や大沢では、みこしが町内をねりあるき、にぎやかに夏祭りが行われる。

15日 下間久里のしし舞い
江戸時代からの伝統行事で、県の無形民俗文化財に指定されている。午前10時ごろから下間久里の香取神社前をふりだしに、3頭の獅子（しし）が宇内の家々を順々に舞ってある。



24日 新方地区の虫追い 新方地区の北川崎や向畑で行われる農村行事。稻にたかる害虫をおびきよせて焼きころすというもので、午後7時ごろから、太鼓や鉦（かね）を先頭に、「稻の虫、ホーイ、ホーイ」とかけ声をかけながら、5枚もある大タイマツをついて田んぼのあぜ道をねりあるく。夜空をこがすタイマツの行列は、ここ新方地区だけにみられる夏の風物詩の一つ。

虫 追い



27日 ほうろく灸（きゅう） 每年土用の丑の日、東町の清正光別院で行われる。素焼きのほうろくを頭にのせ、その上でもぐさをたく。戦国時代、ある武将がカブトの上からもぐさをたき、持病を治したのがはじまりと伝えられ、ぜんそくや冒病にきくとか。

8月



初旬 増林の観光プドウ園オープン 秋の味覚、巨峰がたわわにみのり、ぶどう狩りが楽しめる。

中旬 子ども相撲大会 瓦曾根1・2丁目や大沢、越ヶ谷（9月）などの自治会では、子ども相撲大会を行う。元気なチビっ子力士たちは、暑さも忘れて力いっぱいの熱戦をくりひろげる。ワンパクでもいい、たくましい子に……。

24日 野島淨山寺の大開帳 2月24日参照。

4月



北越谷の桜

上旬 桜の新名所・北越谷の桜並木 北越谷元荒川堤の桜並木は、延長1kmにも及ぶ花のトンネル散歩道。上野まで行かなくても、お花見気分はここで十分に満喫できる。咲き誇る花の下の河原では、弁当をひろげる家族連れや酒盛をする人たちで終日大変なにぎわいをみせる。もちろん夜桜も楽しめる。北越谷駅西口下車徒歩10分。

中旬 ナシ園では人工交配はじまる 4月半ばになると、まつ白なナシの花がいっせいに開花。狹島や出羽・新方地区のナシ栽培農家では、一家給出の人工交配作業に追われる。

下旬 葛西用水に水が入る 市役所わきを流れる葛西用水に水が入ると、もうすぐ夏。水郷のまちといわれる越谷の、もっとも越谷らしい景観をみせる。越ヶ谷高校のボートがうかび、岸辺の柳も緑を増し、まさに水郷越谷の本番が訪れる。

5月

初旬 久伊豆神社の藤まつり 4月下旬から5月の連休を中心に、越ヶ谷久伊豆神社の藤まつりが開催される。県指定天然記念物で、枝張り東西20m、南北30m。花房の長さは50~60cmにも及ぶ。参道には出店が軒を並べ、子ども連れには最適。カメラが趣味という方には、モデル撮影会もあるので応募してみては……。

中旬 稚魚の放流と県民の釣り場・葛西用水 県東部漁業協同組合が、古利根川・元荒川・綾瀬川・中川など県東部一帯の河川にユイの稚魚を放流。また市役所わきの葛西用水は、昨年県民の釣り場に指定され、水落しをする9月上旬までたくさんの大公望にぎわう。日釣り券200円、年間券は1300円。

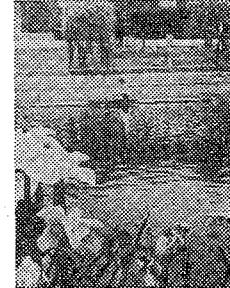
中旬 各種スポーツ教室の開幕 テニス・アーチェリー・バスケットボールなど、教育委員会主催の各種スポーツ教室が開講する。スポ・レク宣言都市越谷の幕開けである。

下旬 夏を告げるスイレン 越ヶ谷久伊豆神社境内のひょうたん池のスイレンが純白の花をつけた。静かな屋さがりのひととき、池の端ではドロガメがのんびりと甲らを干し、新緑の木陰を求めて散策する市民も、花にみどれて思わず足をとめてしまう。この花は6月いっぱいいびとの目を楽しませてくれる。



すいれん

6月



初夏の葛西用水

初旬 越谷さつき展 1000点にも及ぶ鉢木の展示は豪華そのもの。また苗木の即売会も行われ、市民や盆栽愛好者が連日訪れる。会場は市立第一体育館、越谷鉢の会主催。

初旬 夏小菊の出荷 増林や狭島地区は夏小菊の生産地だが、栽培農家では、朝もやをついての切り取り作業に追われる。

中旬 ロードレース大会 近年のマラソンブームを反映してか、市内はもちろん、市外や県外の参加者も年々多くなり、関東近県のマラソン愛好者の交流の場となりつつある。

1月

1日 元旦マラソン大会 その規模は全国有数で、今年は幼児から大人まで1209人が参加。老若男女が、新春にさわやかな汗を流す。

初旬 新春盆栽展 市役所1階ロビーに、鉢木がずらりと展示される。今年は7日から9日まで開かれた。

11日 オビシャ 関東地方東南部で行われる年頭の農村行事。古くは「歩射（ぶしゃ）」といわれ、弓での射を射って、その年の曹凶を占う素朴な行事で、いまでも新方地区の北川崎や桜井地区の下間久里などで受けつがれている。また、このオビシャの日は、たくさんの甘酒をつくり、集まつくる子どもにふるまい、その年の曹作を祈る。

15日 成人式 サンシティ越谷市民ホールで記念式典が行われ、ことしも市内で2657名の若者たちが大人の仲間入りをする。



ユリカモメ

下旬 ユリカモメの群舞 立春を前に連日厳しい冷え込みが続くころ、水郷越谷地方の各河川では、冬の風物詩——ユリカモメの群舞が見られる。この鳥は、もともと海鳥で、江戸川・隅田川の河口や東京湾で遊んでいるときはミヤコドリという風流な名を持つ。その昔、在原業平が「名にしおはば いざ言とはむ都鳥 わが思ふ人はあるやなしやと」と歌に残したのはあまりにも有名。

2月

4日 節分の行事 新しい季節をむかえるにあたって、四丁野迎撲院や大相模大聖寺では、年男が参加し、邪氣払いの「豆まき」が盛大に行われる。迎撲院は午後2時から、また大聖寺は午後6時から。

16・17日 勤労者文化展 勤労者や主婦から募集した、絵画・書道・写真・華道の力作約200点を、サンシティ越谷市民ホールに展示する。



大聖寺の豆まき

22日 越谷市連合PTA文化祭 手芸や絵画などの展示のほか、合唱や舞踊なども発表される。会場はサンシティ越谷市民ホール。

24日 野島淨山寺の大開帳 子授け、安産、子育て地蔵として知られる狭島地区の野島淨山寺では、毎年2月と8月の「24日」の縁日に大開帳が行われ、たくさんの方の参拝者でにぎわう。



下旬 北越谷淨光寺の梅園 市内唯一の梅園で、同寺院境内の80本あまりの梅の古木が花をつけると、たくさんの観梅客が訪れる。見ごろは3月初旬まで。入園無料。北越谷駅西口下車徒歩5分。境内の一角に高浜虚子の句碑もあるので、おみのがしのないように。

3月

2日 県立越谷青年の家文化祭 市内をはじめ、近隣市町の勤労青年たちが、同青年の家のクラブ活動の成果を発表する。10月中旬には秋の文化祭を開催。

中旬 花の展覧会 市内の花卉栽培農家が、チューリップや沈丁花などの切り花を市役所1階ロビーいっぱいに展示。また鉢植え草花の即売会も同時に実行され、毎年大変な人気を集め。6月中旬にも開かれる。

中旬 元荒川堤のツクシとり ポカポカ陽気にさわれて、北越谷や市役所わきの元荒川堤にはかわいいツクシソボが顔を出し、春の訪れを告げる。暖かい日などは堤に出て、子どもと一緒にツクシとりをしてみてはいかがですか。

